

子どもの声・姿・意識	活動の展開	教師の関わり(手立て)	単元の評価規準 ○知識・技能 ○思考・判断・表現 ●主体的に学習に取り組む態度 <キャリア・未来デザイン教育の視点>[探究的な学びの視点]	
「まちを たんけん 大はっけん」(10)				
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検は、どんな所に行けるのかな。 ・坂の途中にある公園で遊んだことがあるよ。 ・橋があって、そこを越えると僕の家があるよ。 ・桜新町の駅がある方だよね。 ・ラーメン「でびっと」があって、食べたことがあるよ。 ・桜っこ公園でいつも遊んでいるよ。 ・風邪の時にいつも行く病院があるよ。 ・ミャンマー公園って、ここのことだったんだね。保育園の時に遊んだよ。 ・友達が言っていたお店、このあいだ行ったよ。 ・どのコースにも公園があったね。 ・次はどこのコースかな。 ・まだ行っていないところにも行きたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが住む町について、知っていることを出し合い、地図に表す。(1) ・下校コース別で知っていることを出し合う ・下校コース以外にも、桜新町について知っていることを出し合う ○通学コースを、赤・緑、黄色・オレンジ、青・水色の3つのコースに分け、町探検に出掛ける。(6) ・どんなお店や建物があるか、町の様子を観察する。 ・友達の話に出てきたお店を見たり、自分が知らなかつたお店や場所を見付けてする。 ○町探検のまとめを行う。(3) ・見つけた物をカードに書く。 ・見つけた物や気付いたことを伝え合い、自分たちの地図を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学区域の地図や地図アプリケーションを活用し、子どもたちが学校の周りの様子を思い出しやすくなったり、友達の情報を共有しやすくしたりすることで、興味関心が高まるようにする。 ・友達の知っていることを共有することで、お店や建物を実際に見たい、確かめたいという思いを高められるようにする。 ・町探検で見付けたことや気付いたことを発表し、地図にまとめてことで、違うコースにも行ってみたいという気持ちや、もう一度行って確かめたい気持ちをもち、次の活動への期待感につなげる。 ・教師も発見したことを伝えることで、共に町探検を楽しんでいることが伝わるようにする。 ・教師は児童の様子を見取り、課題の整理をしたり、思いや願いを明確にしたりする。 	
「みんなが つかう まちの しせつ」(6)				
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・また町探検に行けるかな。 ・図書館はよく行くけど、玉川台図書館は知らないな。 ・本が好きだから、図書館に行きたいな。 ・図書館にはどれくらいの本があるんだろう。 ・図書館には何人くらいの人が来るんだろう。 ・図書館はたくさん的人に来てもらうために、どんな工夫しているのか知りたいな。 ・ここの児童館でよく遊んでいるよ。 ・児童館って行ったことがないから、どんな所か分からない。 ・児童館で人気の遊びを知りたいな。 ・一番遊びに来る小学校はどこだろう。桜町小学校かな。 ・季節のイベントはあるのかな。 ・児童館には何人ぐらいの先生がいるのかな。 ・コースではないけど行きたい所がある。行けるのかな。 ・公共施設って、どんな所のことを言うのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な公共施設について、知っていることや利用した経験を話し合う。(1) ・図書館と児童館について、知っていることを出し合う。 ・図書館と児童館を利用した経験から、感じたことや気になったことを出し合う。 ・知りたいことについて出し合う。 ○町探検として、図書館と児童館にへ出掛ける。(3) ・訪問するためのルールやマナーを確認する。 ・発見したことをメモしたり、知りたいことについて質問したりする。 ○探検のまとめを行う。(1) ・インタビューしたことや、行ってみて感じたことについてカードにまとめる。 ・図書館と児童館の取り組みや工夫、よさについて出し合う。 ・図書館と児童館の方の話を聞いて、分かったことや思ったことについて共有する。 ○他の公共施設について知る。(1) ・公共施設の役割を知り、お店も含め、たくさん的人が働いていることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館で実際に遊んだことのある児童に体験談を話してもらい、利用したことがない児童もイメージをもちやすくする。 ・学校の図書館の話題から話を広げ、公共の図書館にも感心をもてるようになる。 ・公共施設は大勢の人が利用するため、みんなが気持ちよく利用することが大切であることを話し、見学の際のマナーについて、自分たちで考えられるようになる。 ・インタビューの内容をその場でメモに書き取ることは難しい児童もいるため、録画させていただき、まとめを書く際に役立てる。 ・まとめたカードを地図に貼り、活動の成果を目にする形で残していくことで、学級の地図の広がりを楽しみ、次の活動へ期待感をもてるようになる。 ・教師も発見したことを伝えることで、共に町探検を楽しんでいることが伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の施設は様々な人が使用する場だと理解し、場に応じたマナーやルールを考えることができる。 [1:課題を見出し、把握している] <③課題対応能力> ○公共施設を見学する活動を通して、よさを実感したり、働きを捉えたりしている。 <①人間関係形成・社会形成能力> <④キャリアプランニング能力> ○公共の施設を見学し、話を聞き、働いている人たちの工夫や思いに触れることで、自分たちの生活を支えてくれている人がいることが分かる。 <①人間関係形成・社会形成能力> <④キャリアプランニング能力> ○施設見学で発見したことや気付きをカードにまとめている。 <②自己理解・自己管理能力> [4:学びを振り返り、次につなげている]

「もっと もっと まちたんけん」(11)

二
学
期

- ・歩いてお店を見ただけだから、お店の中も見てみたいな。
- ・駅に行って、駅員さんの部屋を見てみたいな。
- ・一番人気な商品は何か、知りたい。
- ・前に友達が言っていたお店に行ってみたいな。
- ・どんなお菓子が売っているのかな。
- ・行ったことないお店だから、行ってみたいな。
- ・お店の人に聞いた話を、みんなに伝えたいな。
- ・撮ってきた写真を見て、考えたいな。
- ・季節のお菓子はあるのかな。
- ・もう一度行ってみたいな。
- ・この間とは、お店のおすすめ商品が違っていたよ。

- 1学期の町探検を思い出し、気になったお店や、行ってみたい場所について出し合う。(1)
- 町探検で行きたい場所ごとのグループを作り、探検の計画を立てる。(3)
 - ・インタビューの内容について話し合い、練習をする。
 - ・お店や場所について事前に調べ、知りたいことを見付ける。
- グループに分かれて、町探検に出掛ける。(2)
 - ・インタビューしたことをメモしたり、知りたいことについて質問したりする。
- 場所や人と関わって分かったことを、みんなに伝える準備をする。(2)
 - ・もっと知りたいことを出し合ったり、気付きや発見をまとめたりする。
- グループに分かれて、もう一度町探検に出掛ける。(2)
 - ・発見したことをメモしたり、知りたいことについて質問したりする。
- 町探検で分かったことをまとめる。(1)
 - ・もっと知りたいことを出し合ったり、気付きや発見をまとめたりする。

- ・1学期の町探検を想起しやすいよう、探検の際の写真や、学習カード、掲示している地図を活用する。
- ・子どもたちの関心度を把握するために、アンケートを取り、グループ分けに生かす。
- ・お店について事前に調べる時間を設ける。
- ・子どもたちの町探検になるよう、インタビュー内容や訪問先でお願いしたいことについては、子どもたちの思いや願いを引き出しながら組み立てていく。
- ・写真や動画を子どもたちが撮影できるよう、使い方について事前に指導する。
- ・働いている方の苦労や喜びなどの思いに気付いていることを価値付けることで、繰り返し関わり、地域の人々の思いに深く触れることができるようになる。

- 自分のお気に入りの場所を見付けたり、考えたりしている。
- [1:課題を見出し、把握している]<③課題対応能力>
- グループで調べたいことやインタビュー内容を相談したり、考えたりしている。
- [3:協働して学んでいる]
- 自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることや、地域の方の桜新町への思いに気付いている。
- <①人間関係形成・社会形成能力><②自己理解・自己管
- 理能力><③課題対応能力><④キャリアプランニング能
- 力>
- 自分たちが見付けたお店や、場所のすてきなところを紹介するために、インタビュー内容と調べたことを関連付けて考えたり、自分なりの言葉で表現したりしている。
- [2:課題解決の方法を考えている]<②自己理解・自己管
- 理能力>

「みんなに つたえよう すてきな まち」(11)

二
学
期

- ・1枚の大きな紙に書きたいな。
- ・地図にしたいな。
- ・自分のおすすめを伝えたいな。
- ・インタビューした時の写真を使いたいな。
- ・粘土を使って、お店の品物を作りたいな。
- ・ぼくたちが1年生の時にやった秋のおもちゃ屋さんみたいに、お店屋さんをしたいな。
- ・段ボールを使おうかな。

- 場所や人と関わって分かったことを、みんなに伝える準備を続ける。(8)
 - ・伝えたいことについて確認する。
 - ・伝える方法を考える。
 - ・詳しく知りたいことについて、訪問して調べさせてもらい、深める。
 - ・作品や掲示物にまとめる。
- 町のすてき発表会をする。(2)
 - ・グループごとにまとめたことについて、発表する。
- 町にはどんな「すてき」があったか振り返り、感じたことや考えを出し合う。(1)
- ・学習を通して、気付いたことや感じたことをカードにまとめる。

- ・様々なまとめ方があることを紹介する。
- ・発表の仕方について、国語の学習と関連付けて支援指導する。
- ・子どもたちが自分の言葉でまとめたり、話したりできるよう、記録をとておく。

- 前時までの思いや願いを受け、調べて分かったことを生かして、自分が見付けた町のすてきなところを表現することができる。また、活動を振り返り、次の活動へ発展するような振り返りや話合いをしている。
- [2:課題解決の方法を考えている]、[3:協働して学んでいる]、<②自己理解・自己管
- 理能力>
- 自分たちのお気に入りの場所作りに、協働して取り組んでいる。
- [3:協働して学んでいる]

材（町と人）のもつ価値

- ・繰り返し関わることで、町のすてきなところをたくさん発見し、よさや楽しさを実感することができる。
- ・町で働く人と関わることで、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることを感じ、地域への親しみや愛着をもつことができる。
- ・季節が変わると、お店や町の様子も変わるため、訪れるたびに発見や気付くことができる。
- ・自分の生活と関わりが深いため、感心が高く、発見したことや自分の感じたよさを伝えたくなる必然性が生まれ、自分から活動したいという気持ちをもつことができる。

材（町と人）に寄せる子どもたちの思いや願い

- ☆町探検に行きたいと思っている。
- ☆自分のおすすめの場所やお店を、友達に知らせたいと思っている。
- ★お気に入りの場所を訪れた経験を活かし、自分も楽しんだり、楽しませたりしたいと願っている。
- ☆地域のことに詳くなり、自分の知っていることを増やしたいと思っている。

★…子どもたちの深層にあると予想される求め・思い・願い